



農山村と都市をつなぐ活動

五ヶ瀬ファンクラブ、福岡健康長寿村

尾崎 正利

(よかネットNO.50 2001.3)

- 3 農業振興

農山漁村地域、離島地域には「物産品を都市の人に知ってもらおう、田舎の良さをみてもらおう」という気分で、様々な取り組みを行うところが増えている。この場合、都市に比較的近いところでは、朝市や直売所をはじめ、取り組みの選択肢が多いように思える。しかし実際には、都市から遠く離れて、距離的な隔絶がどうにもならないことの方が圧倒的に多い。

例えば、よその地域と同じようなホームページを作って、都会に向けて一方的に情報発信をしたり、都会の人達向けのイベントを行い、運営する地域の人がかたびれているところもある。ところが最近、地道に地域の人脈を無理なく広げようとしている地域や人に出会う機会があったので紹介してみたい。

五ヶ瀬ファンの集いは楽しい家族合わせの場
～夕日の里のふくおか町人会の集い

新聞に載った「“五ヶ瀬ファン”福岡で会員募集」という見出しに心ひかれて、1月末「五ヶ瀬町夕日の里～ふくおか町人会設立総会」という集いに出てみた。事前に町役場に申し込んだ時に、電話に出た女性職員がいろいろ教えてくれた。

かいつまんで書けば、五ヶ瀬町が好きだという人は基本的に誰でもOK、その場で町人会総会の役員を決定、町の農家や加工グループのおばちゃん達も来る、お酒も出る、など。これは楽しみだと思った。

県人会など出身地別の懇親会組織はよくあるが、町のファン組織を都会の住民を対象に作るのは珍しい。

五ヶ瀬町は宮崎・熊本・大分の3県の境目に近い場所にある。福岡から車で3時間半。九州を南北に縦貫する九州山地の一角にあたり、私にとっては福岡から遠い山の中にあるという感覚があった。

当日、天神の真ん中にある福岡国際ホール16階

の会場にはかなりの人が集まった。知り合いが一人もいなかったのが総会の進行をぼんやり眺めていると、何となく私以外の出席者はみんな顔見知りのような親しさだ。しばらくは「おかしいなあ」と感じていたが、30分ほど過ぎた頃になって、ようやく自分の勘違いにハッキリと気がついた。

今日の会は過去5年間、五ヶ瀬町で主催されてきた「ふるさと体験交流ツアー」に参加した都会人、受け入れた地元人の新旧を暖める場だったのだ。私のように五ヶ瀬のツテのない人にとっては、はじめ「何のこっちゃ？」という感じがしたのも当然だ。

祝辞も乾杯も無事に済んで立食形式の懇親会になったが、私がついたテーブルはどういう訳か新聞の見出しだけを鵜呑みにやって来た「勘違い派」の人ばかり。見ていると「おたく、五ヶ瀬に行った経験は?」「私?いや、ない」などと情けないやりとりをやっている。

仕方がないので、同じ境遇の人たちと九州の元気のある地域やうまいものの情報交換をしていると、だんだんテーブルがワイワイなってきた。そして次第に五ヶ瀬町の地元農家の人、福岡側の交流会の人と一緒に輪に入ってきた。

「いやあ、今日始めて五ヶ瀬のことを知ってくれた勘違い派の人こそ、本当に大事にしたいのですよ」とか「今度、うちの家に遊びにいらっしやい。ドブロクもあるよー」といった、いろいろと嬉しい歓迎を受けてしまう。

料理といえばダゴ汁やソバなど現地から材料を運んだものもある。お酒は現地で作ったワイン、地元の酒造会社の焼酎などである。

特設ステージでは、過去5年間、農家体験民宿の参加者を受け入れて、この日はるばる五ヶ瀬町からやってきたホスト役のお年寄り夫婦を真ん中に、今までお世話してもらった側の都会の人がゾロリと取り巻いて記念撮影をやっている。何だか

大きな家族の記念写真みたいで、「家族合わせみたいだね」と誰かが言った。間違っよその写真に写ってしまい、本当のホスト父を悲しませてシユンとなっている中年男性もいた。

この日、出席者には大きな字で書かれた名札が渡されたが、緑のプレート=福岡の人、橙色のプレート=五ヶ瀬町からの人、と一目で分かるようにしてあった。

いただいた資料には会則が書かれており、例えば、第4条「活動」の項には(1) 夕日の里で企画されるイベント、及び五ヶ瀬町が福岡県内で実施する物産展等に積極的に参加する、(2) 福岡県内における五ヶ瀬町の情報発信に積極的に協力する、などと書かれている。正・副会長をはじめ役員6名は福岡側から選出。随時、町と連絡をとるという。

勘違いで出席した町人会だったが、おひらきになった会場を後にするときには私もすっかり五ヶ瀬ファンになっていた。「地域のファンクラブというもの」を作るのではなく、5年間の実績の総決算として双方のニーズに応じて作ります、という感じが大変心地よかった。

田舎のホンモノの食べ物と遊びを都会の人が広めよう ~福岡健康長寿村~

福岡健康長寿村のことを知ったのは、企業組合についての勉強会に出席した折、福岡県中小企業団体中央会の吉田隆彦さんに紹介されたのがきっかけだった。都会に住むいろいろな世代の人が、土作りや栽培方法など、ホンモノの食べ物づくりに挑戦する農業生産者の販路づくりを、都会の側でサポートしようということを考えているらしい。

地域の側で物産の販売促進として、都会の流通経路に載せて……という話はよく聞くが、都会の人の側でそれを作ってプロモートするという話はあまり聞かない。そこで、組合事務所を訪れてその辺の事情を聞いてみることにした。理事長は守



図表1 五ヶ瀬町の位置図

宮崎県五ヶ瀬町 夕日の里ふくおか町人会会則(案)

名 称	第1条 本会は、宮崎県五ヶ瀬町夕日の里ふくおか町人会と称し、事務局は会長所在地に置く。
目 的	第2条 本会は、宮崎県五ヶ瀬町夕日の里との交流を通じ会員相互の親睦を回り、あわせて福岡県内における五ヶ瀬町の情報発信を支援することを目的とする。
会 員	第3条 本会の会員は、夕日の里訪問経験者ならびに五ヶ瀬町に興味を持つ福岡県内在住者で組織し、加入、脱会についてはこれを自由とする。
活 動	第4条 本会は、第2条の目的を達成するために、次の活動を行なう。 (1) 夕日の里で企画される各種イベント、及び五ヶ瀬町が福岡県内で実施する物産展等に積極的に参加する。 (2) 福岡県内における五ヶ瀬町の情報発信に積極的に協力する。
役 員	第5条 本会には、次の役員を置く。 ① 会 長 1名 ② 副会長 若干名 ③ 会 計 1名 ④ 監 事 2名
役員選出	第6条 1. 会長、副会長及び監事は、本会において選出する。但し、任期は2年とし再選は妨げない。 2. 会計は、会長が任命する。
職 務	第7条 会長は、役員会の承認を得て本会に顧問を置くことができる。
役員の種類	第8条 1. 会長は、会務を掌理し、本会を代表する。 2. 副会長は、会長を補佐し会長に事故ある時はその職務を代理する。 3. 会計は、本会の会計を掌る。 4. 監事は、本会の会計を監査する。
会計年度	第9条 1. 本会の経費は、必要とする時その都度徴収するものとする。 2. 本会の会計年度は、4月1日より翌年3月31日までとする。
附 則	この会則は、平成13年1月30日から適用する。

図表2 夕日の里ふくおか町人会会則(案)

田武茂さんという人で、70歳過ぎだが、お年を感じさせないくらいに若々しい人だった。

福岡健康長寿村は、まだ発足間もない企業組合で、平成13年3月に事業をスタートするため、今は準備で大詰め段階だという。そのビジネスの理念について以下のような説明がなされた。

- ・朝市や直売所が増えたとはいえ、ちゃんとした作り方をした農産物を消費者に食べてもらう販売サービスの場は少ない。
- ・頑張っている生産者がつくるホンモノの生産品を都会で早く・安く販売するために、いろいろな人のサポートを得ながら仕組みを作っていこうというのが狙いである。
- ・例えば、ある地域の生産者の産品を福岡の街中の一角で売ることにも可能だし、都会の人がその地域に観光などに行く機会だって作れる。
- ・生産の現場に行って作っているのを見ると、とても安いから捨てるなどという考えはなくなる。現場をみてもらうことも大事だと思う。
- ・健康長寿村は今はお年寄りが多いが、若い人やいろいろな知恵を持っている人に入ってもらい、活動面で一緒に取り組めたらいいと思う。
- ・今度の3月くらいに、街中に事業活動の場所を置いてスタートさせたい。当面は農産物の販売を、将来的には食事などの分野、観光サービスなどの分野も視野に入れたい。

なぜ、そんなに一生懸命にされるのか守田さんに聞いてみると、「日本の人口が1億人を切る頃には国力も落ちているだろう。その時に子どもや孫の代が食べ物を奪い合うような国にだけはしたくない。若い人たちに豊かな世界を残すことが我々の世代のやり残したことだと思っています」という答えが返ってきた。

現在、福岡健康長寿村は九州内の山間部のある地域と一緒に、品揃えや販売方式などについて細かな打ち合わせを進めている最中で、まず実績を

作ってから、関わりのある地域をもっと増やしたいという意向をもっている。

ものの販売や流通だけでない「こころ」「元気」の産直があるはず

今回2つあげた取り組みに共通しているのは、ものの販売や流通というよりも、どちらかといえば都会の人がファンになった地域の応援をしようという雰囲気にあふれていた。「こころ」とか「元気」の要素を農山村にもらって、都会の人も同じように送り返す。

モノを買う動機は色々あると思うが、都会の人が今度から気になる地域、思い入れのある地域のものを選んで買っていきうようになるかもしれない。ついでに人にも勤めるようになるかもしれない。

モノだけだと、いくらい品を作ってもお金だけでカタがついてしまうけれど、人の絆や思い入れでお互いに求め合って結びつくならば、それはモノという次元を離れて記憶に残る時間延長の効果につながるのだと思う。